

第3回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会

(概要)

先般開催した、令和3年度 第3回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和3年12月15日(水) 13時30分～15時30分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

3. 検討結果

地域や工場によって違いはあるものの、製材工場の旺盛な需要に対して供給が追いついておらず、原木不足は解消されていないため、引き続き「生産した素材の早期販売」を継続する必要がある。今後においても、地域の需給状況を注視しつつ安定供給に努めていくこととした。

4. 主な意見等

○ドマツ・エゾマツの原木消費量と在荷量はコロナ前の同水準にほぼ戻ってきたものの、カラマツでは原木消費量はコロナ前の88%、在荷量では81%となっており、依然として厳しい状況にある。

道有林の立木販売は、11月末時点53.8万m³で不落はなく、販売進捗率は過去3カ年では同時期85%のところ97%であり、購入者には可能な限り早期の伐採・搬出に協力してもらっている。

輸入材の動向が見えにくく、この先道産木材の需要については見えにくいものの、引き続き旺盛ではないかと考えている。

○森林整備事業は天候の関係もあり、夏場に下草があまり伸びず2回刈りを1回刈りで完了したこともあった。植え付け事業は遅れがあるなか除間伐へ移行し事業がずれ込んでいる。そのため主伐が増える時期ではあるが、除間伐も行うため数量の減少が懸念される。

製材工場の在庫は平均1.7ヶ月分と厳しく、特にカラマツが不足している。カラマツは民有林が多いものの、樹種に限らず旺盛な需要があるため国有林には引き続き前倒し販売等の対応をお願いしたい。

○製材品の用途に限らず原木が不足している。住宅用をメインに製材しているが製材後すぐ出荷するため在庫は増えない。例年需要が落ちる時期だが、道内の状況をみると現状落ちるような状況ではない。

輸入材は先が見えない状況ではあるが、価格や流通量を考えると直接的に道産材へ影響を与えることは考えにくい。供給調整は数量を減らすのではなく、増やす方向で考えてほしい。

○素材生産は台風等大きな災害がなく天候に恵まれた。道内の素材生産を行っている傘下の事業体を対象としたアンケートでは60社の回答があり、増産が可能と答えた事業体の回答が62%だった。

素材生産請負が終わる目途が付き、手山等の素材生産に移る影響もあるかも知れないが以前より回答が増えている。一方増やせないと答えた理由の 9 割は人手不足で、他には重機の不足が挙げられた。

川上の事業者からウッドショック後の単価下落を懸念する声があった。川下には現状の単価維持を期待したい。

原木輸送業者も林道のリスクや輸送単価の厳しさから担い手不足の声を聴く。林道の設計や維持についてはよりご配慮をお願いしたい。

○システム販売で在庫を確保できているところもあるが、製材工場は全体的に在庫が厳しい。合板材・移出材では昨年は一昨年比約 25%減だったが、今年は一昨年比ほぼ 100%。ただ本州ではスギ・ヒノキ・南洋材の確保が難しく、カラマツに加えてトドマツも引き合いが強くなっている。どこも集荷に苦勞し、移出でも引き合いに応じ切れていない。

輸入材はピーク時の価格から 20~25%下がってきている。年明け 2 月以降にまた上昇するという話もあるが弱含みが妥当な見解と考えている。国産ラミナは 1 万円/㎡ほど上がってきたが、価格の下がってきた輸入材と同程度の値段になってきた。国内の原木不足で価格上昇が続くと輸入材価格との逆転現象を懸念している。

○製紙関係について、原料は背板チップの出材が増加し原料在庫は潤沢。しかし今後数年は、古紙や外国産チップ・パルプの供給が不足する予測がなされているため、国産チップは今後も使用割合が増加傾向と考える。2 月以降新規稼働のバイオマス工場もあるため各方面からの調達の調整を行っていきたい。

バイオマス工場は原料が潤沢な一方、枝条の使用を控え丸太の使用量が高まっているため、チップ工場には原料がなかなか入って来ない。今後のためにも各チップ工場と連携して原料材の確保に協力したい。

○当社の原料在庫は昨年と同程度の約 1 ヶ月分を確保。しかし原木の入荷量は生産量と同程度のため、システム販売を利用して年内の在庫を確保している。工場によっては在庫が不足し、高値が出ているところもある。エゾマツ・トドマツにはホワイトウッドやスプールの代替需要があり、今後も需要は続くと思われる。中・長期的な観点の調整が必要であり、出せるところは出して欲しい。

○原料在庫について昨年 12 月は 2 万㎡のところ、今年は 11 月時点で約 6 千㎡とおよそ半月分の在庫しかなく、12 月は 2 千㎡程度の試算。昨年からの在庫を食い潰している状況で、注文に対して原木が足りず納期の先送り、工場の時短稼働もしている。在庫を確保できている工場もあるが、半月分の在庫しかない工場も多いため供給調整は民有林材に影響が出ないかたちで出材を増やして欲しい。

○苫小牧バイオマス工場は 3 割をチップで購入しうち 8 割が未利用材で、約 1 年分の原木在庫がある。白糠工場では全体の 7 割をチップで購入し原木在庫は 15 ヶ月分を確保している。今のところチップの調達価格も上がっておらず特段対策は必要ないと感じている。

合板は品不足が顕著で、当社のパーティクルボードは厚物合板の代替需要があり、本州から引き合いが出ている。